

2008.11.22

私の好きな演奏家 第1回

セルジュ・チェリビダツケ
ジャクリーヌ・デュ・プレ
モーラ・リンパニー

プログラム

今日は、“私の好きな演奏家”と題して私自身が高く評価している3人の演奏家の優れた録音をご紹介します。と思います。

かつて“幻の指揮者”と“言われていたセルジュ・チェリビダツケ(1912~1996)も86年のミュンヘン・フィルとの来日以降90年代には3度の来日を果たし、すっかり日本びいきとなりました。しかし、どの時代の録音を聴いてもチェリビダツケだけが持つ美学を感じる事が出来ます。

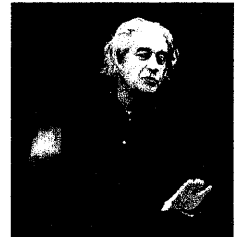
“多発性硬化症”という難病のため、わずか28才で現役を引退したジャクリーヌ・デュ・プレ(1945~1987)は、12年という短い間に残した数々の名演によって永遠に語り継がれることと思います。

平凡なピアニストとされていたリンパニー(1916~2005)は、晩年には感動を与える大ピアニストに変身していました。大器晩成型の典型と言っても良いでしょう。

そんな3人の演奏をじっくりお聴き頂きたいと思います。

ジュゼッペ・ヴェルティ (1813~1901) : 歌劇“運命の力”序曲

セルジュ・チェリビダツケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
(1989.10.5 ミュンヘン、ガスタイクホールLive)



ガブリエル・フォーレ (1845~1924) : エレジー短調Op.24

ジャクリーヌ・デュ・プレ (チェロ) / ジェラルド・ムーア (ピアノ)
(1968年録音/EMI盤)



アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904) : チェロ協奏曲短調Op.104 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から

ジャクリーヌ・デュ・プレ (チェロ)
セルジュ・チェリビダツケ指揮スウェーデン放送交響楽団
(1967.11.26 ストックホルムLive)

*** 休憩 ***

フレデリック・ショパン (1810~1849) : ワルツ第3番短調Op.34-2

モーラ・リンパニー (ピアノ)
(1992.4.3 サントリーホールLive)



セルゲイ・ラフマニノフ (1873~1943) : ピアノ協奏曲第3番短調Op.30 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章

モーラ・リンパニー (ピアノ)
ジェームズ・デブリースト指揮東京都交響楽団
(1994.11.17 東京文化会館大ホールLive)

ジャン・シベリウス (1865~1957) : 交響曲第2番長調Op.43 ~ 第1楽章から、第3楽章から、第4楽章

セルジュ・チェリビダツケ指揮スイス音楽祭管弦楽団
(1974.8.14 ルツェルン、クンストハウスLive)